

子どもの本棚 音訳者アンケート

【1】 児童書を読むにあたって一番苦労した点はどこですか？

・対象者を意識した読み方について

「児童書なので、明るく聞きやすい読み、説明文は子供にわかりやすい言葉で」との指示が、初めてなので「どの程度？」なのかに迷いました。

子どもに楽しんで聞いてもらえるように、声色を使いました。耳障りにならないように工夫しました。

子供に聴かせると思うと、興味を持って貰えるよう、飽きさせないように、大人対象の情報伝達と違う声のトーンで読むのに苦労しました。

これまで長年、市の広報のほか、図書館の蔵書の音訳もやって来ました。その中には児童書も何冊がありました。

今回の児童書の音訳も、その経験から応募したのですが、仕様書には、声の表情や挿絵の言葉選びに、きめ細かい配慮がされていて、改めて私はこれまで利用者が子どもたちであることをあまり意識していなかったことに気づかされました。

仕様書で明るい声でとの指示がありました。あまり感情豊かに読むのも違うと思いましたし、加減に苦慮しました。自己判断で、登場人物が老人と子供なので声を変えて普段よりは感情移入し録音しました。でもあれで良かったのか迷うところです。

通常の音訳は感情移入なく淡々と読み進めています（なかなか会話文はそうのように出来ていませんが）。児童書では子どもたちが理解しやすいように多少は気持ちを乗せてみましたが、過剰にならないよう、また個人的な理解に偏らないようにと意識するのも難しかったです。

明るく、軽やかに、楽しめるように読むこと。

本の内容をきちんと伝えること。

ゆったりと子供のところに添えるように読むこと。

・表紙・イラストの説明について

私は普段の朗読でも絵や写真説明はわりと丁寧に説明する方だと思っています。子供に理解してもらえるような説明ができているか不安です。

子供にわかる表現、言葉など良く考えたつもりでしたがこれでこの挿絵の通りに想像して頂けるのだろうかと心配でした。

今まで、表紙の説明とか挿絵の説明を入れていなかったのでも、少し大変でしたが、確かに、見たままを全て表現する必要性わかりました。

普段、市立図書館依頼の音訳なども行っているのですが、郷土史やグルメ情報など写真や地図などが多く、児童書の挿絵と文章とを、わかりやすく自然な形で音訳することは、とても難しかったです。利用者が、正確に想像できる絵の説明とは。詳しくすぎても簡単でも伝わりにくく、何度も聴き直し、探っていったという実情です。

挿し絵や表紙の絵などについて、説明の仕方というよりも、どうすれば本文を邪魔せずにきちんと伝えられるか、挿入する場所や方法などについて、苦労しました。

本文となるべく違和感のない文章に出来るかどうか。どこまで挿絵の説明をすればいいのか迷いました。本の雰囲気をこわさないよう、あまり長くならないように簡略に説明しようと思うと言葉が難しくなってしまうので、易しくかつ的確な、小さいお子さんにわかってもらうような説明を考えるのが、一番苦労した点です。

表紙カバーのカラフルな絵や、挿絵がたくさんあり、どう読もうかと悩みました。

本文を読み進め挿絵の淡々とした説明を聴いた時、「あのシーンの絵だね」等と楽しんでいただけならと思い、あえて登場人物や動物たちの名前は出さず読みました。

挿絵がたくさんありました。その説明を場面に応じて児童に分かりやすく作文する事が一番大変でした。分かりやすかったのかどうかについては 自信が無いですが…。自分が子どもの頃は 挿絵はその本を好きになる大きなポイントでもありましたので気を使いました。

・その他のこと

何歳を対象として想定したらよいか。子どもの成長は著しく、特に小学生の1年生と6年生とでは雲泥の差です。また、個人差も大きいからです。

一番苦労した点と問われれば、事務局が頭に描いている完成録音図書の形をイメージすることでしょうか。もちろん「全国基準」に沿って製作しますが、施設ごとに違う細かい点（例えば、ページ付は改頁の前後どちらかの直近か？必ず後か？フレーズか？原本の読点か？ また、標題紙を、挿絵や色など どの程度読むか？）などは、いちいち初めに問い合わせが必要でした。

そういった全図書に共通の大まかな製作マニュアル（音ボラネット独自の）が有れば、事務局側も音訳者も録音製作が楽だったと思います。

挿絵等が、お話の流れ、作中の人物の気持ちと相まって 作品世界が動き出すまで、悩ましく長い時間が必要だったこと

一般的な小説では、ほとんど「挿し絵」の説明がないので戸惑いました。どの程度の説明が適当なのか、どの箇所に入れればいいのか。またルール通り「挿し絵説明」を入れることで、ストーリーを止めてしまい内容の邪魔をしているのでないだろうかということも未だにすっきりしないままでもあります。

挿し絵が多い本でしたので、ストーリーを引き立てるには、挿し絵説明をどこで入れるのが適切か迷いました。

ファンタジー系の読み物でしたので、実際にはない物を説明するのが難しかったです。

文章を忠実に伝えること、決して押し付けず、聴き手の想像力をかき立て原本の世界に入っていけるよう音訳することが、一番の苦労でした。でもこれは児童書に限らず、どの図書にも共通することですね。

過剰な装飾を施さない、シンプルな言葉が並んでいます。会話も短く、でも子どもなりの複雑な心が潜んでいる。奥の深さを感じました。

ページ付でした。 I ページ目のどの部分を取り上げればよいのか分からず、結局講習会で指導された方法をとってしまいました。

- ・ 句点から句点を1フレーズにする。
- ・ ページがまたがる時は、最終行と次の1行目の字数の多少で決める。

見出しのルビの記入などは 児童書ならではのかな？と新鮮な驚きでした。

【2】音訳を終えての感想をご自由にお聞かせください。

私にとっては只々「楽しかった♥」のひと言が全てでした。本が届いた時からワクワクが止まりませんでした。いただいた本が極端に絵の多いものではなく、年齢も小学生中学年向けということで音訳しやすかったこともあり、読者の一人として本に向き合っている感じでした。

日頃の音訳は広報や医学書が多く、楽しいと思って音訳することがなかったので新鮮でした。

(ついついその後が気になって続編を読んでしまいました)

とにかく、楽しかった！に尽きます。所属する団体では、大人の本だけを音訳しています。児童書が音訳できるということが実現して、嬉しく活動できました。

作品を登録していただきうれしくありがたく思いますが、次回のために「ここをもう少しこういう風に」などのアドバイスが頂けるとありがたいと思います。お忙しい中無理な注文かと思いますが、音ボラ標準に対して自分の作品がどの程度なのかが不安です。

初めて子どもの本を読ませていただきました。楽しかったです！！

いつもは苦勞をして読み終わっても提出したくない、下手なのが聞き返すとよくわかり、もう一度やり直したいといつも思ってしまいます。今回もまだまだ未熟ですが読んでいて楽しかった。子どもが幼い頃、本を読んでいる私の傍で真剣に聞いてくれていたことを思い出しました。

もっともっと勉強して、より良い読みをしていかなければという気持ちになれて、良かったと思います。また、会報で、読んだ本を借りてくださった読者の数も教えていただけたので、励みになりました。

今の時代、安直に色々な情報が入ってくる子供たちにこんな童話を沢山読んだり、聞いたりして欲しいと思いました。時間にあまり追われることなく、作成できたことは助かりました。

本が違えば、音訳の仕様書も違って当然だと思っていましたが、同じ本を音訳するにあたっても、いろいろな考え方があるのがわかりました。

特に、児童書だから何を大切にするか、の考え方に違いがあるので、仕様書を作る段階で、きちんと相談する必要性を感じました。音訳は、難しいですね。

児童図書は初めての経験でしたが、詳しく書かれた仕様書が同封されておりとてもやりやすかったです。

20数年音訳活動をやってきましたが、年齢的に声も低くなりスピードも遅くなってきたのを実感しているこの頃です。仕様書には読み方としては「明るく読んでください」とだけありましたのでそれを意識しながら読み進めて、他の図書よりも、読んでいるうちにだんだん楽しくなりました。

音訳をよく知らない時、絵本が読みたかったのです。音訳をはじめて、難しさを知り、絵を読む事の難しさが分かりました。

今回、児童書の音訳の機会を頂き、音ボラ、校正の皆さんのお力をお借りして何とか完成致しました。感謝の気持ちでいっぱいです。また、今の自分で読める精一杯の本が出来たと思って居ります。自分では、挿絵と文が一体になった本が嬉しく、達成感がありました。

命の大切さについてはよく言われますが、担当図書は命そのものについて考えさせる内容で、現代っ子たちがどのように感じるか聞いてみたいと思いました。子どもたちが読んでくれればいいなと思います。

今回、このような企画を知り、是非にと手を挙げました。子どもたちに、一冊でも、いつまでも思い出に残るような絵本を届けたいという気持ちです。一冊を納品し終えて、実は、自分の未熟さに、甘くないな一と思いました。音ボラネットの担当の方々には、細部にわたり、丁寧にお返事をいただき、やっと完成に至りました。それでも、納品しますとお返事いただいた時には、とても嬉しかったです。

ありがとうございました。これからも、児童書の音訳を、探求しながら携わっていきたいと願っています。

読んでいるうちに本の世界に引き込まれ、自分自身も子どものようにワクワクしながら読んでいました。講座で漫画の読み方を学んでいました。今回、本文中に出てくる挿絵はコマ割りされた漫画でしたので、学んだことを少し生かすことができて楽しかったです。機会がありましたら、また、児童書読んでみたいです。

ふだん児童書を読む機会がないので、大変楽しく読むことができました。送られてきた本を見たとき、ひらがなばかりだ！と驚き、カラフルでかわいらしいイラストに、自分もワクワクしながら読みました。このような機会を与えていただきありがとうございました。

児童書は、あまり音訳したことが無かったので、大変勉強になりました。

この録音図書を聞いた子供たちが、さらに想像の世界を膨らませてどんどん本を好きになってくれたらと思います。

表紙カバーの読み方の勉強になって、よかった。ページをつけるフレーズは1秒以上で意味が分かるように、ということを知らなかったのが、気をつけた。やりがいを感じられた。

添付して頂いた録音図書製作仕様書を頼りに音訳、DAISY 編集を行い、音訳校正、DAISY 校正はグループの仲間にお願ひしました。子ども達に喜んでほしいと忌憚の無い意見を出して頂き完成した音訳データを送ることができました。

楽しかったです。少し私達の DAISY 録音図書制作マニュアルと順番の違いはありましたが、ほぼ同じでした。勉強になりました。ありがとうございました。

児童書の音訳は初めてだったが、校正者の方より良いアドバイスを頂くことができ感謝している。この活動に参加して、平易な文章こそ「意味を伝える読み方」は難しく、また児童向けの本なので「読む（聴く）の楽しさを届けられたのか」など課題が多く残っている。

子供達の本への世界が少しでも広がってくれたら、嬉しいと思います。

仕様書に大変親切に記載して下さい、進行がスムーズでした。

当会で、今回の児童書の音訳者3名で、互いに校正や編集を交換しましたので、音訳・音訳校正・編集校正などについて、色々話し合いをしながら、互いに確認できましたので、楽しく、意義深い機会になりました。いい経験をさせて戴きまして、大変勉強になりました。これからのデージー図書作成に、大いに参考にさせて戴きます。お陰様で、会での製作に、最近児童書を選ぶことが増えてきました。

このプロジェクトに参加させて戴きまして、本部の方々を、とても身近に感じて・・・嬉しかったです。ここからお礼申し上げます。色々ありがとうございました。

申し込んでからかなり日数がたっていたので、できればいつ頃着手できるか（配本）予定がわかると良かったと思います。

また、コロナ禍ということもあり、校正者とレターパックでやり取りをしたので図書室など施設内での録音・校正だと負担がなさそうですね。

校正を依頼した友人も良い経験ができたとのこと。

挿絵の説明など、諸々の確な校正を受けました。

私は構成などの基準について不安でしたが、仕様書がとても丁寧でその通りに進めることができました。

絵本・児童書が大好きで、絵本・児童書を読む会にも所属しているくらいです。児童書が読めることはうれしい限りです。

図書館からの依頼本には、子どもの本がほとんどなく、大人向けの本が多いので、今回の音訳はとても楽しく読めました。

ましてや、今、子どもたちに人気の本。楽しいお話でしたので、なおさらです。テンポ感もあり、わくわくドキドキ冒険ものでしたので、一緒にワクワクドキドキしながら読みました。

音ボラねっと通信にも、貸し出された回数が書かれていて、励みになります。（図書館からの依頼本は、どのくらい借りられているかは不明です。）たくさんの利用者に読んでいただけると嬉しいです。

私は、テープ録音の時代からのボランティアです。これまで児童文学の録音図書が整っていなかったとはと驚き、今回のプロジェクトを立ちあげた方々に、心からの敬意を表します。

自分自身の本好きをはっきり自覚したのは、小学生の頃だったことを想えば、子どもたちと一緒にお礼を言いたい気分です。

今回、何回と無く「児童書」だからという声を聞いたような気がします、あまり「児童書だから」と考えない方が良いと思います。妙に、優しく読んだり、ゆっくり読んだり、感情を入れすぎたりがあるような気がします。

低学年対象の図書には、言葉の言い回しには配慮が必要でしょうが、3～4年生以上からは、殊更難解な言葉を使わなければ、成人書と同じで大丈夫だと思います。小学生のことばの理解力は高いです。

絵本や児童書には普段から親しんではいましたので自分自身も楽しみながら進めさせていただきました。本当に良い機会をいただきありがとうございました。当会においても初めてのことでしたので、今後、視覚障がいの方に限らず、識字障がいや発達障がいの子どもたちへも門戸を広げた活動が出来ないだろうかと検討するきっかけにもなりそうです。

仕上げて送った音訳を丁寧聴き、誤りを指摘していただき、感謝に堪えません。

全ての音訳図書をあのように検品されるのは、大きな労力が必要かと思います。本当に頭が下がります。

もちろんこれまでも、自分なりに誠実に音訳、校正、編集をして来たつもりです。でも今回の経験で、この作業への責任の重さを改めて自覚し直しました。この経験はこれからの取り組みにも活かしていきたいと思います。

外のイイ空気を吸ったという感じです。経験をいかして地元での活動に繋げて行きたいと思います。

子どもに伝わるようにと平易な言葉を選んでいるうちに、かえって少しずつ作者の深い意図が伝わってくるという感覚がありました。嬉しいものでした。

プロジェクトのお知らせを受け取り、大変やりがいのある仕事と思い、すぐに参加を決めました。

完成した後も、貸し出された回数が通信に載っていて、その数を知り、頑張ってた良かったと思いました。利用する皆さんにお役に立つ図書が増えていくことに、微力ですが協力していきたいと思っています。

選書、仕様書作成など。本が送られてくるまでに大変な作業があると思います。今後もどうぞよろしくお願い致します。

仕様書が所属団体の形式と多少の違いがあって戸惑ったが、こちらの質問に丁寧に対応して下さり理解できました。

挿絵が多く、量としては大変でしたが、考えることはとても楽しかったです。録音した説明文が本文の中で違和感なく収まっているか、過不足はないか、また説明に使う言葉も、本文と乖離していないか、難解ではないか、など、考えながら作業しました。それでも、もっとできたのではないかと今になって思います。

このプロジェクトはあくまで子どもたちのためのもの。自分の勉強の場ではなく、自分の音訳で製作のお手伝いをする場だと思っています。(結果的に学んだことはたくさんありますが) これまで積み重ねてきた音訳技術を生かすことができれば、ぜひ今後も参加したいと思います。

このたびは、良い機会をいただき、ありがとうございました。挿絵、写真の多いものは結構やっておりましたが、大人向きのものと、断定を避けるというか、ぼかした表現になってしまうことがあります。ですが、子供に向けそのような対応だとわかりにくさが先に立つと判断しました。ある程度の断定は仕方ないものと考えました。登場した動物が、うさぎと蝶だったこと。数え方は一羽に一頭。結局、うさぎさんたちとか、チョウチョが群れて飛んでいますとか、こちらは都合よくアイマイにしました。

その後頂いた通信で、自分が作成した録音図書がダウンロードされて沢山の方に聞いて頂いていると知り、感無量でした。やはり聞いてくれる人あつての録音ですね。利用者さんがいるという事は作者さんの力ですがそのお手伝いできたという満足度に繋がりました。